**仏殿**

仏殿（仏様のお堂）は建長寺の最も重要な建築物のひとつであり、建長寺の建物の中で最初に完成したものでした。仏殿には建長寺の本尊である地蔵菩薩の大きな像が祀られています。地獄から天国まで、その地蔵の慈愛に満ちた存在が正しき道を照らし、地蔵は助けを求める者たちを害から救うのです。

境内の多くの建物と同様に、仏殿も火事や災害に遭っており、何度か再建されています。日本の戦国時代（1467–1568）には建長寺は援助が受けられないことで苦しみ、再建をひどく必要としていました。

徳川家康（1543–1616）が1603年に将軍として任命されて以降、17世紀の間は徳川の将軍たち（1603–1867）が建長寺の後援者となりました。徳川家は建長寺の再建に資金を提供し、現在の仏殿を1647年に寄贈しました。それ以前、仏殿は江戸（現在の東京）にある徳川家の寺、増上寺にありました。

徳川家との繋がりのため、その仏殿は典型的な禅寺の建築よりもずっと豪華に装飾が施されています。壁の彫刻が施された華美な板や天井の金箔の装飾は、仏殿が建てられた時代の徳川家の権力と影響力を反映したものです。天井はきらめく金箔を背景に描かれた縁起の良い鳥たちの画で飾られています。

仏殿は1624年から1644年の間に再建されており、重要文化財に指定されています。仏殿はいかなる信仰も問わずすべての人に公開されています。